



THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

REGION ワイズメンズクラブ国際協会西日本区
JAPAN WEST

六甲部部報

2016-2017 年度（活動報告）

国際会長主題 “Our Future begins Today”

「私たちの未来は 今日から始まる」 Joan Wilson (カナダ)

スローガン “Together We Can Do So Much More”

「手を取り合えば、もっと多くのことができる」

アジア会長主題 “Respect Y's Movement”

「ワイズ運動を尊重しよう」 Tung Ming Hsiao (台湾)

スローガン “Solidify the Y's Men Family for Better World”

「よりよい世界のために、ワイズメン・ファミリーの絆を強めよう」

西日本区理事主題 「ワイズ魂で更なるワイズの活性化を！」

“Energizing Y's Men's Clubs with the Y's spirit!”

「定例会の充実と活発な奉仕活動でメンバー倍増！」

“Doubling membership through having substantial meetings and active service!”

岩本 悟 (熊本にしクラブ)

六甲部部長主題 「楽しい交流と、やりがいのある奉仕活動でなるクラブ活性化を図ろう」

長井慎吾 (西宮)

ワイズメンズクラブ国際協会西日本区 2016-17年度 六甲部役員（ ）はクラブ名

部長：長井 慎吾（西宮）、直前部長：進藤 啓介（神戸）、次期部長：杉本隆人（神戸学園都市）、
書記：濱 浩一（西宮）、会計：山本 常雄（西宮） 事務局長：馬場 一郎（西宮）、
連絡主事：三島 浩司（西宮）、監事：多胡 葉子（宝塚）

「活動のまとめと次年度へ向けて」

六甲部部長：長井慎吾（西宮）

「楽しい交流と、やりがいのある奉仕活動で更なるクラブ活性化を図ろう」を部長主題として1年の活動が終わりました。六甲部は、YMCAへの奉仕や地域に根差した良き奉仕活動を実践しています。しかし、高齢化と会員数の減少に歯止めがかからず、特に、実働会員が減少したクラブは運営が困難な状況にあります。部会は、副題として「我々の足元を着実に」をテーマに、どうすれば若手会員が獲得できるのか提案をしました。さらに、各クラブが継続的に実践してきた良き奉仕活動と交流の内容を発表してもらい、改めて各クラブの宝ものを紹介し合うことでやりがいのある奉仕活動実践の相互啓発となりました。

活動報告

Yサ・ユース事業

・全国リーダー研修会（10/8～10/10・神戸YMCA余島キャンプ場）に熊本 YMCA 阿蘇キャンプ場の山田真二所長を招聘し、リーダーに講話を実施して頂きました。

・神戸YMCAチャリティーラン；11月3日神戸しあわせの村にて神戸YMCA主催、六甲部共催にて開催しました。8クラブが出店やチーム参加で盛り上げました。

・神戸YMCA YYフォーラム；2月18日神戸栄光教会で開催しました。神戸YMCAに連なる職員、ワイズ、ユースリーダー他87名が参加し、ブランディングについて学び、グループセッションでYMCAの可能性や期待など活発な議論を交わしました。

地域奉仕・環境事業

・きらり輝くアート（臨床美術）；11月19日神戸須磨教会にて開催しました。認知症改善のアートプログラムとして開発され、現在では社会人や子供のメンタルヘルスに用いられています。専門の臨床美術士を招いて指導して頂きました。約10名参加。

EMC事業

・EMCシンポジウムとして、六甲部部会を開催しました。「われわれの足元を着実に」をテーマに、部長発題「六甲部の現状と将来」と若手会員獲得の方法について新たな取り組みを考える機会としました。

国際・交流事業

・六甲部スポーツ交流会「ローンボール大会」を神戸しあわせの村にて開催しました。19名参加。

・ワイズとYMCAのイベントリストを発行し、相互交流の一助となりました。

・東西日本区交流会に六甲部より11名が参加。神戸ポートと東京むかでのDBC交流が行われました。

メネット事業

・六甲部部会に先駆け、メネットアワーを開催しました。NPO法人箱崎自由学舎エスペランサ代表の小田哲也氏を講師に、「どんな環境にある子供にも等しくサポートを」と題する講演を聴講しました。

広報活動

・ワイズメンズクラブ六甲部の紹介パンフレットを作成し、各クラブの活動で配布しました。六甲部ホームページにも掲載し、内外への広報活動を展開しました。5月13日開催の神戸YMCA新会館オープニングデイで兵庫県副知事、神戸新聞、韓国からのゲストなど8クラブの活動を広報しました。第20回西日本区大会にて、理事表彰広報最優秀賞を受賞しました。

次年度へ向けて

2017-2018年度は、西日本区理事を輩出することで、その活動を六甲部上げて支援します。特に、第21回西日本区大会は、既に1月より区大会実行委員会が組織され活動を開始しています。一段と部の結束が必要となりますので、特に区大会へ参加されることが少ないメンバーを巻き込むことで結束の輪を拡げて頂きたいと思います。また、3月に開所した神戸YMCA新会館を中心に、新しいブランディングを活用して神戸におけるYMCA運動の推進に力を入れたい所存です。最後に若手会員の獲得が最重要課題です。一騎当千のメンバーを獲得したいものです

Yサービス・ユース事業を振り返って

事業主査：上杉 徹（神戸西）

主査主題を「愛と奉仕の精神をすべてのユースへ」として、1年を通して神戸YMCAが希望する支援をタイムリーとは言えないが支援を行うことができました。

実績としましては当初計画にはない支援でしたが、4月の熊本地震を受け、余島で開催されたYMCA全国リーダー研修会において、熊本YMCA阿蘇キャンプ場の山田真二所長を招聘してユースリーダーに震災後の復興支援活動を学ぶ機会を設けることができました。追加で支援金を7万円援助することにはなりましたが、ユースが学ぶ良い機会を提供することができました。

2017年1月26日（土）開催のYYフォーラムにおいては支援金5万円と、さらに六甲部より3万円の合計8万円を資金援助しました。ユースの参加といよりも、全国のYMCAが進めている「ブランディング」のキックオフミーティングという趣旨の中で、ユースを巻き込んでという内容とはならなかったことが残念である。次年度以降はユースの参加を期待したい。

ワイズメンズクラブの活動もボランティアリーダー会にはある程度の認知はあるが、将来にわたっての関わりについてのレベルまでは出来ていないように感じています。ユース委員会・会員活動委員会と協力してボランティアリーダーを中心に新たに神戸YMCAの活動に興味を持ち参画するユースの獲得と育成、そしてそこからワイズメンズクラブへの参加を促すことが継続的な課題であるが、現代の学生たちの置かれている状況、社会状況などもらみながらYMCAとして取り組む事、そのことで社会参加することに意義をみいだす若者の支援を続けていくことを願います。

地域奉仕・環境事業を振り返って

事業主査：安行 暁子（さんだ）

西日本区CS資金の支援により、2016年11月19日（土）に須磨教会ホールにおいて『キラリ輝くアート展 臨床美術』をCS事業として部主催で開催しました。

臨床美術は、認知症改善のアートプログラムとして開発されて、現在では社会人や子どものケア

に用いられています。創作する楽しみや喜びによって、五感への刺激を図り、各人の成長を促進させることを目的にされています。専門の臨床美術士を招いて指導していただいた。約10名の参加でした。

以前に実施された、「きらりと光るアート展」の発展版として今回部の継続事業とした。

EMC事業を振り返って

事業主査：野呂 隆（神戸学園都市）

昨年度にEMC事業主査の担当になったときに、最初に考えたのはまず自分達のクラブが率先して積極的に活動しなければいけない、という思いでした。そこでクラブ内で皆さんと話し合い、意見交換して主な活動方針を次のように決めました。そうしてこれを六甲部の活動方針として、評議会で説明致しました。

- ・ワイズメンズクラブの知名度を高めよう。それぞれの地域で、ワイズメンズクラブの名前を知っている人は意外に少ないようです。まず名前を浸透させたいです。

- ・定例会やイベントでは、クラブの活動を積極的にPRしよう。

ワイズのリーフレット、のぼり旗などももっと積極的に利用して、活動状況をPRしたいです。

- ・各クラブの実情に合ったEMC活動の推進
各クラブの地理的特性など地域事情はそれぞれ違いますので、各クラブでどんな活動が効果的でふさわしいかを考えて、独自性のある活動ができたらと思います。

- ・六甲部会、YYフォーラム等のイベントに積極的に参加しよう。

六甲部のイベントに積極的に参加し、ワイズの活動の楽しさや醍醐味を体感していただきたいです。これが、EMC活動の原点ではないでしょうか。

以上のことを心がけて活動してまいりましたが、六甲部の各クラブはそれぞれ特色のある例会やイベントを開催していただき、EMC活動に大変役立ったと思います。

各クラブのご尽力で六甲部は昨年度に6名の入会式を行うことができました。ここ数年の会員減少傾向を食い止められたのではないかと、思っております。各クラブのご努力に対し敬意を表しますとともに、新年度の一層のご活躍を期待しております。

国際・交流事業を振り返って

事業主査：廣瀬 献児（神戸ポート）

2016ー2017年度の国際交流事業は、長井六甲部長の提唱された副題にある、「我々の足元を着実に」のビジョンに基づいて、六甲部内の交流事業を軸に展開しました。相対的にIBC等の国際交流支援活動が下火になったことは心残りでした。しかし、当年度に行った事業のうち、10月に開催したローンボウルズ大会のような交流型事業、また各クラ

ブイベントをまとめて全クラブに配布したワイズイベントリストのような情報共有事業が、クラブ間交流の活性化に役立ったと思われますし、六甲部独自の事業として国際色を出していくこともできる（例えば海外からゲストが来るタイミング似合わせて交流事業を行う、各クラブのIBCのイベントもリストに載せて交流を推進する）ように感じました。六甲部内の交流活性化の延長線上に国際交流が展開するのが、今後のクラブの着実な発展に寄与するのではないかと思います。

メネット事業を振り返って

事業主査：斎藤 明子（神戸）

メネット事業主査を担当させていただいたことにより、ワイズメンの目指すところ、働き方を知ることができたことは、私の大きな収穫でした。支えて頂いた皆様に感謝申し上げます。

六甲部全体のメネットが共に動けるように、代表のメンバーが集まって、ミーティングを数回持ちました。くつろいだ雰囲気の中で、互いを知り意見交換できるようになって、皆の思いがまとまり、次の活動へのアイデアやエネルギーが出てきました。活動テーマは、今年度のメネット推進事業から発展して、『子供の貧困』。メネットができる事業としては、まずは知ること、そして身の回りへの啓発活動につなげればという方針を立てました。重いテーマですが、それぞれの意識の共有ができたことはとても達成感があり、うれしいことでした。

今後も、メネットがメンと共に、社会的な課題に対し、真摯にされどゆとりを持って取り組んでいけることを希望します。



<ワッカ見学会>

広報活動を振り返って

広報委員長：鯖尻 佳子（宝塚）

六甲部広報委員長としてまず六甲部ホームページの充実を注いでいきたいと思えました。六甲部以外の部や西日本区のホームページを参考にさせて頂きながら、評議会、部会、チャリティーラン、YYフォーラムの記事に写真を沢山入れて六甲部報に掲載。

今、改めて写真の撮り方にも工夫が必要と感じています。当初、計画していたことも実行出来ずに終わったことも多々あります。来期も広報委員長として去年出来なかったことを少しでも実現できるように努力したいと思っています。例会案内で各クラブ例会日や内容を表にしていきたいと考えております。これでクラブ同士交流が深まればと思います。また他の部の方々にも六甲部をアピール出来るように努めていきたいです。来年は神戸での西日本区大会の開催です。広報活動の重要性を深く感じています。

一年を振り返って

神戸クラブ会長：美崎 晋

【2016年】

7月 キックオフ例会

8月 ユースアクティビティ強調月間 神戸西クラブとの合同例会 長井部長も参加

ゲストスピーカー：西田 勉氏(西神戸ブランチ館長、WC 学園都市所長、)「生きにくい世の中を生きる若者たち」

9月 メネット強調月間 メネットナイト

ゲストスピーカー：茂木美知子氏(WACCA 代表)、松本悦子(学習支援担当責任者)、須藤孝史(大阪大学理学部学生)「女性やシングルマザーと子どもたちの居場所、WACCAにおける学習支援活動や女性の就労支援活動」

10月 BF・EF 強調月間

ゲストスピーカー：伊田昌義氏(ネットワーク神戸理事長)「障害者の地域交流について」

11月 Public Relations・Welness 強調月間 チャリティーラン 「収益金 2,603,155円」

12月 EMC-M YES 強調月間

クリスマス特別例会@芦屋モリス 46名参加うちゲスト21名 山下慎司さんライブ etc.

【2017年】

1月 IBC・DBC 強調月間 新年例会@井出ワイズ邸 次期役員選出

YYフォーラム「今しか聞けないブランディングのなぜ？」

2月 TOF・CS・FF 強調月間

ゲストスピーカー：山口 元氏(社会福祉法人光朔会)「祖父 世界のヤシロ 空飛ぶ主教 八代斌助を語る」

3月 JWF 強調月間

ゲストスピーカー：浅葉めぐみ氏(フードバンク関西理事長)「フードバンクの活動について」

3/19 神戸 YMCA 新会館完成記念礼拝

4月 YMCA サービス・ASF 強調月間

ゲストスピーカー：福井康代氏(兵庫県ユニセフ協会事務局長)「子供の権利条約」

松田道子メンバー主事が神戸ポートクラブへ移籍、大田靖之氏(FWC 主事)がメンバー主事として入会

4/8 座古谷光夫功労会員ご逝去(享年90歳)

5月 LT 強調月間

ゲストスピーカー：辻村謙一氏(学校法人辻村学園)「悩み多きボランティア活動の現状報告」

米子クラブとの DBC 交流会@木曾路三宮店 米子クラブ 5名来神、神戸クラブから 11名が参加

6月 評価・計画強調月間

・交流面では、神戸西クラブ合同例会、ネットワーク神戸バザー、芦屋クラブクリスマス例会、神戸ポートクラブ例会、国際協力街頭募金活動、学園都市クラブに美崎会長がスピーカーで参加。

・社会的弱者に対する支援では、主にシングルマザーおよびその子供たち、障がいを持つ方々への支援を行っている団体(WA、WACCA)との交流を密にしていけたと思う。

・残念ながら、新規参入メンバーの獲得はできず。例会の一般開放等も考慮しなければいけないかと思う。

一年を振り返って

西宮クラブ会長：万本 敬一

「明るく、楽しく、チームワークで行動し、さらに活力あるクラブにしよう」を会長主題としてスタートし、メンバーの方々に手伝ってもらい、助けて頂いて過ぎた一年でした。芦屋クラブとの合

同納涼例会が楽しく行われ、山本邸をお借りしてのメネットとの会食例会、西宮 Y ワイカーニバルでの“のみの市”、岩手県宮古市の障がい者施設の物品販売支援やチャリティーランでのカレー販売、クリスマス例会と続きました。西日本区大会では、全メンバーの協力により熊本震災復興支援金を西日本区理事へ手渡すことが出来ました。メンバーの皆様一年間ありがとうございました。

一年を振り返って

神戸西クラブ会長：大田厚三郎

昨年度の方針として、2つのことを掲げました。

1. 神戸西クラブを存続させる。
2. 新長田地区で社会貢献活動に取り組む。
 1. については、阪神・淡路大震災を原因とする「クラブの退潮」に歯止めがかからず、クラブの解散をも視野にいれるところまで追い込まれている実態があります。

私たちは、この間、手をこまねいていたわけではありませんが、退潮は続いています。この2年間で、ずっとこの問題をクラブ内で議論してきましたが、やっと「存続させる」方向で意見が一致したように思います。

しかし、クラブ会員の現状から、①ブリテンの発行 ②例会の開催に絞り、それ以外は余力があればすることにしました。そうは言ってもワイズメンズクラブは、奉仕団体で活動団体です。何もしないわけにはいきません。座して死を待つよりは打って出て生き伸びなければなりません。私たちたちのルーツは新長田・西代地域です。創立55周年を迎え、もう一度ルーツに戻ろう、原点に戻ろうという思いが、よみがえってきました。

それが、2. 新長田地区で社会貢献活動に取り組む。ということの意味です。幸いにも、昨年は、新長田地区で活動するWACCA（ワッカ：シン

グルマザー・こどもを支援する会）と出会い、その事務局長の茂木さんと交流を持つことができ、クラブ活動の光が見えてきたように思います。本年9月30日にWACCAの会員親子30組を、神戸クラブと合同で、野外活動に招待することが決まっています。

ささやかな支援活動を通して、神戸西クラブのルーツを学び実践をしていきたいと考えています。現状の会員一人一人が楽しめて、世の中の役に立っている活動に従事することが、神戸西クラブの成長（会員増強）につながっていくものと確信しています。

また、今年の6月例会では、「西神戸ランチ（長田ランチ・西神戸青少年センターとも言われた）の思い出を語る会」を企画し、当時の職員、リーダーOB、関係者が16名集合しました。出席者は懐かしい方々と再会を喜び合い、食事も忘れて思い出を語り合い、あっという間の2時間の例会でした。

22年前の阪神・淡路大震災で、西神戸ランチが40年(?)の歴史を閉じて以来、初めての試みを、「ランチの生みの親」である神戸西クラブが主催できたことは神様のお導きであったと思わざるを得ません。今後も、「西神戸ランチ」の活動と歴史が、神戸YMCA・地域社会の中で、忘れ去られないように、正當に評価されるように、神戸西クラブの活動の柱として取り組んでいきたいと思っています。

一年を振り返って

神戸ポートクラブ会長：大野 智恵

揚がれ！希望の凧 3月11日

被災者のことを忘れず、心を結び復興を願う気持ちを表すために、他地域で開催される同イベントと連動して凧揚げ大会を開催しています。



特養オリンピアでクリスマス会 12月
くさぶえ合唱団の協力を得て、利用者さんとともにクリスマスをお祝いし、楽しいひと時を過ごします。



ベルマークを集める 通年

ベルマーク運動に参加して、被災地の学校を支援します。点数の集計は、支援先のWAPに協力してもらっています。

「捨てればごみ、集めれば宝」
ご家庭で眠っているベルマークはありますか？



<p>チャリティーコンサート</p> <p>被災地の復興を願い、コンサートが続いています。毎回、趣旨に賛同して下さる演奏者のおかげで、様々なジャンルの音楽を楽しんでいただいております。</p>	<p>毎年4月か5月</p> 	<p>チャリティーラン 11月3日</p> <p>秋の一日、しあわせの村で、子供も大人も楽しく走り、その参加費で障がい児のプログラムを支援します。</p>	
	<p>真生塾納涼大会</p> <p>8月</p> <p>児童養護施設真生塾の夏祭りにおいて、たこ焼きととうもろこしの出店で盛り上げています。</p>	<p>出店で協力</p> <p>タピオカドリンクとチョコレートバナナ、奈良・明日香の美味しい柿も好評でした。</p> <p>毎年、販売収益金を,YMCA に献金しています。</p>	
<p>DBC・IBC 交流</p> <p>東京とシアトルのクラブと交流が続いています。定期的に訪問し合ったり、活動を助け合ったりしています。</p>	<p>8月・12月</p> 	<p>例会 (毎月第2木曜日)</p> <p>毎回、様々な分野で活躍される方をスピーカーにお招きして興味深いお話をしていただき、視野を広げています。</p>	
 <p>アメリカ・シアトルにて</p>	 <p>東京のクラブと合同</p>		<p>ファンド活動 5月・11月</p> <p>じゃがいもや新玉ねぎの販売をして、奉仕活動のための資金集めをしています。購入に協力して下さる方々によって成り立つ活動です。</p>

一 年 を 振 り 返 っ て

宝塚クラブ会長：若林成幸

主 題	<p>限りない挑戦で新たな気風を呼び込もう！</p> <p>Transformation , Y's challenge continues .</p>
活動実績	<p>クラブの人的ノウハウを総動員して、「旬の青年チャレンジャー発掘作戦」を撃ち、例会ゲストに迎える。50人例会を年4回開催し、友好クラブとの合同例会を計画する。</p> <p>→ 3ヶ月単位で例会ゲスト・プログラムを決めチラシを3回発行した</p> <p>→50人例会は1回のみ。1年間の例会の平均出席者24.8人、メン出席率72.7%、会員出席者の減少をゲストでカバーした格好。</p> <p>理事・主任、六甲部各主査の方針を尊重しつつ、独自の味付けを添えた活動を展開する。</p> <p>神戸YMCAのサポート活動を積極的に行うと共に、国際交流・国内各クラブとの協調をこれまでと同様に</p>

	<p>を進める。</p> <p>→岩国クラブ・鹿児島クラブとのトライアングルDBC締結は2018年度に実現を見込む。</p> <p>→Give Club、Yakima Clubは福田宏子・杉谷和代メンを中心に交流の実をあげている。</p> <p>→国内外の友好クラブとの交流は積極的に行われておりブリテン掲載分だけでも1年間で延24件の交流報告がなされている。</p> <p>3. 地域貢献活動を積極的に展開し、地域での存在感を増す。</p> <p>→市民クリスマスには、関学フラサークルに加え、関学神学部学生会の出演協力があり、関学生との交流の場面が広がってきた。合せて関学同窓会宝塚支部に後援団体として勸奨、次回に実現する見込み。</p> <p>→ポップンキッズ支援は、市民クリスマス参加のほか、今夏の阿蘇合宿応援が予定されている。</p> <p>→はんしん自立の家：有志によるフラ教室・音楽教室などの支援活動をベースに市民クリスマスへの入居者の招待が定着し、新たに甲山登山応援や、NPO武庫川がっこうと揚がれ希望の凧、福祉アート展が共同開催となり、広範囲に協働プログラムが行われるようになってきた。</p> <p>ファン活動を充実すると共に、ジャガイモ・バザー・市民クリスマスの諸活動は、これまでとは少し違った味付けを行って継続する。</p> <p>→ジャガイモ販売：産地の天候異変による収穫減少のあおりを受け300箱に減数して販売。販売価格も昨年レベルを維持し、好評であった。</p> <p>→市民クリスマス：会場ロビーにて募金活動を実施し、12万円余を集め、全額を神戸YMCAの国際協力募金・震災支援活動のために献金した。</p> <p>→バザーでは、来場者は少な目であったが、お楽しみ券の売り上げは順調で総じて期待したファンを獲得した。</p>
<p>評 価</p>	<p>例会の充実のために、旬のゲスト・スピーカーの発掘に力点を置き、月々の第2例会の重要議題として掲げた。結果、素晴らしいゲストに出会い充実した例会運営がなされたことを喜ぶたい。あわせて新たな例会参加者の開拓を目論み「ちらし」を公民館・図書館での掲出を試みた。このような活動がEMCに反映されると考えている。</p> <p>交流活動、地域活動は大いに誇ることが出来る内容であり、それぞれに携わっておられるメン及びメネットの献身的な努力に感謝したい。</p> <p>高齢化は確実に進み、「主要な行事を次世代に引き継ぐ段取り」を考える時期に来ていると思うようになった。地域との接点が広がった今、これをどのように明日に繋げていくのか、思案の時間は短い。</p>

一年を振り返って、

さんだクラブ会長: 安行英文

会長主題を「みんなにワイズを ワイズに奉仕を」、活動方針「クラブ活性化で元気に」としました。既存のプログラムには積極的に参加し、充実した時を過ごせた。ただ、クラブの活性化にはまだまだトータル的に若さと増強の壁がある。

・会員増強の実施については、三田 Y の野外プログラムの閉鎖もあって、増強のタイミングがつかめず、増強には至らず、

さんだクラブの置かれている状況からの判断を今一度全員で考えた。結論は来年の大野年度に。

・クラブ例会運営をより楽しく、様々な卓話を聞く機会を

増やすについては、数少ない卓話の例会を持たた。

・ファンづくりの計画を年間計画に従って実行でき、8月6日の花火例会は例年どおり盛大に、六甲部の各クラブから参加いただいた。11月3日のチャリティーランは今年も唐揚げとフライドポテトでの応援ができた。11月23日の「もりもりフェスタ」ではファンづくりで奮闘した。2月11日のバレンタインコンサートは入りが少ないながらも、恒例としての行事が定着していることを実感できる催しであった。

・次年度は二十五周年の記念コンサートを企画。

・時期的に拠出金の払いが滞ってしまったことを反省

・年末年始の交流例会は、限定的なクラブとの交流はできたが、多くのクラブへの参加はできなかった。

・歓迎会と感謝祭は、数少ないリーダーとの交流の機会

はもてた、今後のリーダーとの交流がもてないのが残念。

・YMCAとの協働は、お手伝いできたと思う。

一年を振り返って

神戸学園都市クラブ会長：藤井久子

会長主題を「楽しく交流・活動で、クラブの活性化を」としました。私の入会時より健康上の都合・私的な都合によりメンバーが減少しています。ノン・ドロップを目指し、今期は欠席されたメンバーへは、例会の様子ができるように短いお手紙を添えて当日の資料を郵送し、少しでも例会の雰囲気を感じるようにしました。2月に長坂泰一さんをメンバーとして迎えることができましたが、YMCAのスタッフ異動により連絡主事交代、メンバー主事交代による退会があり、残念ながらノン・ドロップとはいきませんでした。

地域の方々に「ワイズメンズクラブ」の活動に興味をもって頂けるよう、例会参加を呼びかけました。2月の「美味しい日本茶の入れ方」3月の「ヘルマンハーブコンサート」4月の「ロコモティブ・シンドローム」5月の「ハワイの文化に触れあう(フラ)」では、メンバー以上の参加がありま

した。地道な活動ではありますが、将来この中から入会者を迎えることができればと思っています。

残念ながら、IBCの台湾高雄ポートクラブとの交流は、クリスマスカードのみ、DBC交流もこちらから、東京武蔵野多摩クラブを訪問することができず、石丸由佳さんの訪問を受け入れただけでした。やり残したことが多々ありましたが、1年間皆様のご協力・ご支援本当に有難うございました。



一年を振り返って

芦屋クラブ会長：上野恭男

初代に会長をし、20年ぶりに再度の会長となり無事に終えた今の所感を述べたいと思います。

芦屋クラブの初代会長は、田中義宣大阪YMCA前総主事のフォローを得て、また、親クラブの大阪、神戸両クラブの応援を頂き無我夢中で過ごしました。

今回は、会員とともにYMCAに目を向けて行動できました。YMCAの新館完成に立ち会えたことは心に残る出来事でもありました。

YMCA理解が足りず、1からスタートしたのですが、2010年には同盟より「青少年奉仕賞」を頂き、YMCA支援への気持も一層強くなりました。

この1年、年間行事のチャリティーラン、YYフォー

ラム、YMCA語学校留学生交流会、芦屋さくらまつり出店なども無事に芦屋クラブのスタンスを保つことが出来ました。

芦屋クラブ20周年を次年度に控え、その準備にも心を配りました。

DBC交流ですが、鎌倉クラブ25周年記念例会、もりおかクラブ10周年記念例会への参加、西日本区大会での熊本みなみクラブとの交流など心に残ることでした。

西日本区大会では、ユース支援優秀クラブ賞、ノンドロップ賞を芦屋クラブはいただきました。さあ、次期はYサ事業主査となります。手が抜けのない日々が続きます。この1年、会長を支えていただいた柏原佳子書記、羽太英樹会計はじめ会員各位に御礼申し上げます。

編集後記

2016-2017年度六甲部部報(活動記録)を作成するに当たり、皆様のご協力により、遅くなりましたが、無事に完成することが出来ました。皆様より送って頂いた原稿をページ数の関係で、多少変更させて頂いていますことをお詫びいたします。この一年間本当にありがとうございました。感謝！(直前書記)